

第6回公立大学法人設立準備委員会 議事概要

1 日時 令和7年7月28日（月）15:45～17:00

2 場所 オンライン開催

3 出席者

○ 委員

高橋徹 県副知事（委員長）、小中章雄 県総務部長、荒木泰子 県庄内総合支庁長
矢口明子 庄内広域行政組合理事長（酒田市長）、皆川治 鶴岡市長
阿部誠 三川町長、富樫透 庄内町長、松永裕美 遊佐町長
上野隆一 学校法人東北公益文科大学理事、神田直弥 東北公益文科大学学長

○ 事務局（県総務部高等教育政策・学事文書課東北公益文科大学公立化準備室）

五十嵐裕彦室長、佃吉彦室長補佐ほか

4 議事概要

◇ 委員長（県副知事）挨拶

- ・ これまで、この準備委員会で、法人の定款、財産の出資、入試制度、学生納付金など、様々なことを協議してきた。
- ・ これを受けて、県議会6月定例会、庄内広域行政組合議会7月臨時会に、定款の制定、負担付き寄附の受領、財産の出資に関する議案を提案し、可決いただいた。
- ・ 入試関係では、オープンキャンパスにおいて、令和8年度入試の詳細について説明が行われていると聞いている。
- ・ 本日は、今後、設立団体となる県と庄内広域行政組合が協議を行うための協議会の設置、公立大学法人評価委員会の設置、機能強化の基本方針の素案などについて議論を行う。
- ・ 特に機能強化については、公立化のメリットを生かして、大学だけでなく、県と2市3町も一緒になって取り組んでいくべきものと考えており、それぞれの立場から御意見を頂きたい。

◇ 協議

（1）公立大学法人東北公益文科大学運営協議会規約（素案）

事務局から説明し、原案のとおり承認された。

（2）公立大学法人東北公益文科大学評価委員会共同設置規約（素案）

事務局から説明し、以下のとおり質疑応答があった。

【皆川委員（鶴岡市長）】

- ・ この設立準備委員会は、法令に基づく制度や規約など細かな確認を要する場であるとともに、首長などを交えた意見交換の場でもあるが、事務的に処理しなければ

ならない議題と、大学の方向性を率直に意見交換する議題を整理し、今後、できるだけ本質的な議論ができるようにしていただきたい。

＜回答＞事務局 五十嵐室長

- ・ 制度に基づく法定協議会や評価委員会とは別に、大所高所からの意見も頂きながら、大学の方向性を議論していくことは必要と考えている。
- ・ 大学の方向性などについて自由に意見を交わす場として、副知事を長とする関係団体連絡会議（仮称）を必要に応じて開催することを検討している。

（異議なく、提案のとおり承認された。）

（３）中期目標（骨子）

事務局から説明し、原案のとおり承認された。

（４）機能強化の基本方針（素案）

事務局から説明し、以下のとおり質疑応答、意見の表明があった。

【矢口委員（酒田市長）】

- ・ 環境の視点から地域課題の解決や持続可能な社会の構築に取り組む人材の育成については、中期から長期で取り組む想定となっているが、公益学部には環境は必須であるので、短期も含めて令和８年度から検討していただきたい。
- ・ 公益大を大人も学ぶ大学としていくことは、設立団体として財政負担をするに当たり、より多くの住民の理解を得ることにつながるため、公開講座や履修証明プログラムだけでなく、社会人入試についても自治体の広報で周知すべきである。
- ・ 他の高等教育機関との連携については、広く捉えるべきであり、慶應義塾大学先端生命科学研究所との連携を通して、慶應義塾大学と連携を強化することも、公益大の魅力に繋がると考える。
- ・ 公益大は、日本で唯一公益学部がある大学であり、公益や公共、地域連携や地域共創の視点で研究している県外の大学と連携していただきたい。

【皆川委員（鶴岡市長）】

- ・ 資料４－１の概要資料については、機能強化の相互の関係性がよくわからず、平面的であり、公益大が具体的に組みんでいくためには、機能強化を立体的な視点で捉えるべきである。
- ・ ３つの階層で考えた場合、１層目では、例えば、産学官連携プラットフォームの構成メンバー、立ち上げ時期、活動内容や機能などを位置付け、２層目では、環境や食文化の何に力を入れていくのか、課題を明確化するためのテーマ設定を行い、３層目では、例えば、アントレプレナーシップ教育の充実により起業家を育成するといったソリューションを位置付けるなど、立体的な姿を示して大学の機能強化に取り組んでいく方が良いのではないかと考える。

【松永委員（遊佐町長）】

- ・ 洋上風力発電を始めとする再生可能エネルギーの普及と、自然災害の激甚化については、現在の状況に合わせて、別の項目立てとしていただきたい。
- ・ 自然災害の激甚化については、これから若者が地球温暖化について学ぶ際、とても大事な要素であり、専門的な知見のある方から学び、正しい認識を持ってもらいたい。

【富樫委員（庄内町長）】

- ・ グローバル人材の育成という観点では、先般、JICA の事務局長と意見交換した際、JICA の取組の成果を地方に還元したいという流れがあり、ぜひ公益大と連携できればという話があった。
- ・ 開学当初は、国際的な組織と関連する分野の先生が在籍していたと思うが、今後どのようなメンバーで何を目指していくかが非常に重要であるので、中期目標などで大学の目指すべきところを肉付けしていただきたい。
- ・ 先般、山大農学部、鶴岡高専の先生方との会議の中で、ぜひ公益大と連携したいといった声や、協働の仕掛けについて、様々な意見を伺ったが、こうした地域のニーズを具現化すると同時に、選ばれる大学として、学生が、公益大での学びや目標を通して自身の将来像を可視化できるような機能強化策である必要がある。
- ・ 今後、公益大が何にフォーカスして取り組んでいくのか、検討の期限に間に合うような体制づくりも含めて、より良い方向性を段階的に整理していただきたい。

【阿部委員（三川町長）】

- ・ 機能強化の基本方針の素案については、2市3町の様々な考えをうまく集約してもらったと感じている。
- ・ 機能強化がスタートした場合、それぞれの中期目標の期間において、検証が必要であり、学生がどのような形で関わっていくか、教授やそれぞれのゼミ等の役割にも大きな期待がある。

【神田委員（東北公益文科大学学長）】

- ・ 大学に対して、大きな期待をかけていただいていることを改めて強く感じた一方、この機能強化を現状の体制でやり切れるのか不安がある。
- ・ 中期目標の下に現在の大学の教学中期計画で行っている内容を若干修正し、この機能強化の内容を上乗せしていくという認識であり、今後、評価委員会が業務実績への評価を行うことを踏まえると、現状の体制では、意欲的な目標値を設定していくことが、なかなか難しいということもあり得る。
- ・ 食文化や環境は、非常に重要なテーマだと認識をしているが、その分野の専門の教員がいない中で、具体的な計画を今すぐ立てるのは、難しいと考える。
- ・ こうした機能強化は、いずれも重要なことであると認識をしており、人的、物的にも支援いただきながら、実現可能かつ、定期的に評価される際に前進していることが見えるようにしていくための体制整備についても、併せて検討していただきたい。

【上野委員（学校法人東北公益文科大学理事）】

- ・ 機能強化の素案については、今まで論議されたことが非常に良くまとまっているが、本当にこれを実行するという意気込みが薄いと感じる。
- ・ 庄内地域における公益大の役割は、地域課題の解決策を作るセンターになることと思っているので、これからの庄内地域の20年後、30年後を見通し、達成できる可能性のある姿を作ることもできるのではないかな。
- ・ 未来の地域デザインを描くためには、神田学長から話があったように、今の大学の体制では難しいと思う。
- ・ 大学を取り巻く自治体や経済団体の組織をどのように作って、その中で公益大がどのように役割と責任を持つのか、しっかりと議論しなければならない。
- ・ 地域の教育研究機関にとどまらず、この地域の未来を作っていくという意気込みがあれば、全国に公益大を示していけると思うので、地域課題を解決する先進事例を作っていただきたい。

【矢口委員（酒田市長）】

- ・ 神田学長から、現状の公益大の人的体制では、やり切ることができないのではないかなという意見があったが、大学や地域の実情を踏まえて、環境や食文化について、取組が足りない部分と強化する必要がある部分をもう少し整理した方が良いのではないかな。
- ・ 食文化や環境は、山大農学部でも取り組んでいるので、他大学と公益大との役割分担や連携について、次回までに詰めると良いのではないかな。

【皆川委員（鶴岡市長）】

- ・ 先程、上野理事からもあったが、公益大が公立化して新しい体制で出発する際には、やはりエネルギーが必要だと思う。
- ・ 産学官連携プラットフォームについて、しっかり大学も関わったビジョンを作る必要があるが、課題を明確にして、課題認識を共有しなければ、解決しようとするために人材を集めたり、資金を集めたりするエネルギーは生まれてこないと思う。
- ・ 課題を特定してビジョンを描き、バックキャストしていく手法を新しい大学でも模索していくことが必要ではないかな。
- ・アントレプレナーシップのように何かを生み出していくことで解決に向かう方法もあれば、他の大学との連携、ネットワークで解決していくようなやり方もあり、そこは解決の手法だと思うが、行政や経済団体との役割分担も踏まえながら、機能強化を通して公益大の役割をさらに具体化していただきたい。

【高橋委員長（県副知事）】

- ・ 機能強化については、様々な意見を踏まえ、引き続き専門部会で検討していきたい。

（５）独自奨学制度（大学院）

事務局から説明し、原案のとおり承認された。

(6) 令和9年度入学者選抜

事務局から説明し、原案のとおり承認された。

(7) その他

【矢口委員（酒田市長）】

- ・ 教育研究審議会、経営審議会、評価委員会の委員や理事について、学外からの人選をする時は、公益学部が日本で唯一の学部であり、日本でここにしかない教育研究していることを理解し全国の大学の動向に通じている方、より大きな視点で評価していただけるような方をお願いしたい。
- ・ 在学生に不利益がないように様々な制度の検討を進めていただいているが、制度が大分シンプルになってきているので、今一度、在学生に不利益となるような見落としがないか、点検していただきたい。

<回答>事務局 五十嵐室長

- ・ 在学生への配慮は、非常に大事だと思っており、不利益がないように大学とも調整して、大事な情報については周知するよう対応していきたい。

【皆川委員（鶴岡市長）】

- ・ 今後、ますます事務量が増えると思うので、事務量を減らす工夫をしてもらうよう提案したい。
- ・ 今日の会議でも、事前の説明において異議がないという議題がいくつかあったが、そうしたもののまで審議する必要はなく、事前に書面等で事務的に整理すれば、会議もスリムになるため、このメンバーで議論が必要なところに時間を割くことを提案する。

以上